

より良き環境啓発施設建設に向けて（私案）

NPO 法人富士市のごみを考える会 時田 祐佐

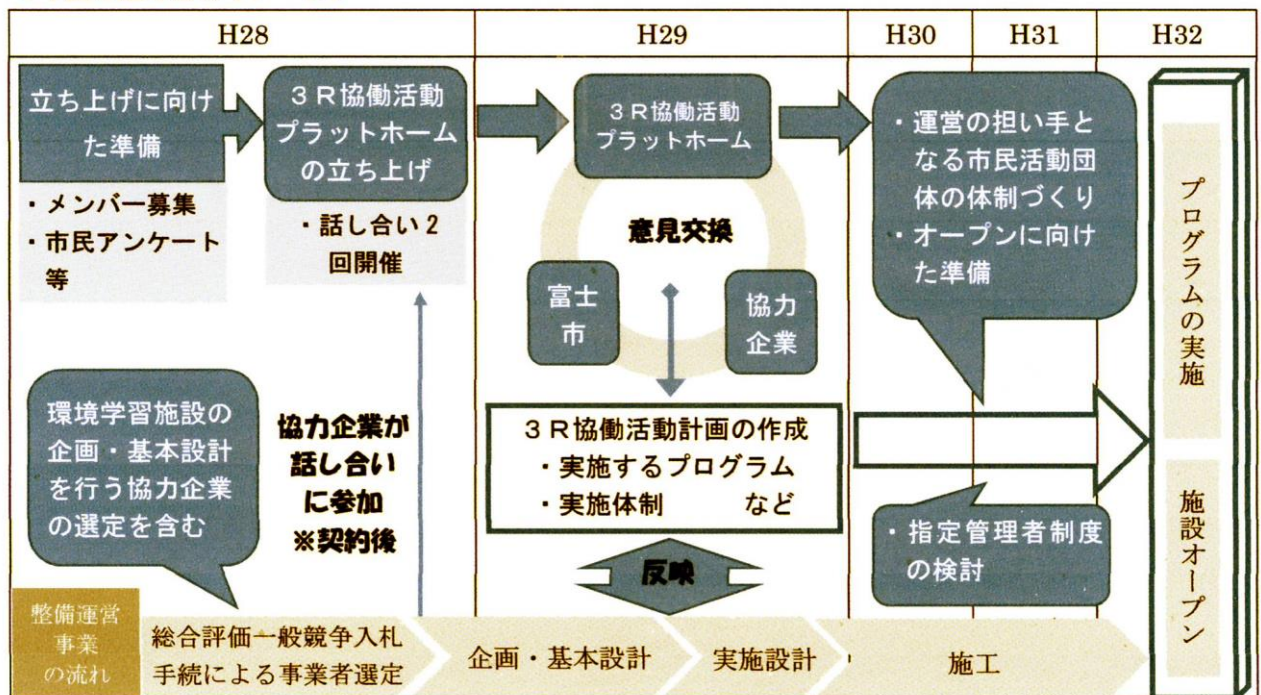
総括

1. 少なくとも今回参集した方々は、前回参集された方々とは異なり、すでにその道での活動の実績があり、「どんな施設が良いかとかの全体論」をうんぬんするのを前面にする必要はないと思う。彼らは、ご自分の担当の「事業プログラム」深堀の中でそれらの点も含め、過去の経験を踏まえた提案が出てくるものと期待できる。
 そういう点も含め、「企画調整会議」が必要かもしれぬと前述している。
2. まずは、稼働当初実施する「事業プログラム」を確定し、その深堀と要員確保にかかるべきではないか。

各論

1. 市の環境学習・環境啓発計画によれば、
 「市民が主役となった施設とするために、3R 協働プラットフォーム、市、施設設計等を行う協力企業との間で意見交換を行い、市民のアイデアを可能な限り施設に反映したい」としているが、

<今後の進め方のイメージ>



平成 28 年度、「3R 協働プラットフォーム」は立ち上がったものの、平成 29 年度に行うこととしている「3R 協働プラットフォーム」、「富士市」、「協力企業」間の意見交換を踏まえ「3R 協働活動計画の作成」を経て、施設の「企画・基本設計」、「実施設計」を進めることとなっている。

2. 今回ようやく「基本設計」案が公開され、具体的検討へのスタートとなったが、本「基本設計」案は、私達が検討していたものに比べると大幅に縮小されていると言わざるを得ない。我々の描いていた構想案（新環境クリーンセンターに併設される啓発施設プログラム集）は、建物は3階で屋上活用のものでこの案が地元から市当局に提案されている。今回

提示されたものは平屋 204m²、各種の事業プログラムを実施するとの説明はあったが、物理的に限られたスペースでは、各種のプログラムは「場所をシェアして使用」することとなり、段取り替え等の大きな手間がかかること必須であろう。

3. 今回参集した方々の参画の主目的は、あくまでも、事業プログラムの深掘り（具体化、詳細化）とその事業プログラムの推進要員の確保・育成で、環境啓発施設の構造・設備・器具備品等の仕様検討は二の次と考えてよいと思う。

何をやるか（事業プログラム）が明確に決まれば、それを実施するために必要なものは、その道のプロ（クリーン工房等）が準備してくれるはず。そのために彼らがいる。我々市民団体が事業プログラムに基づき必要で十分なものが何かの意見を言うことに何ら問題はないが、必要で十分なもの確保に我らが責任を負うということではないと思う。

4. 推進体制としては、既存の「3R 協働プラットホーム」を母体として、これに新たなメンバーを募集（主に、旧来のネットワークを活用しての呼び込み方式）して、母体を強化していく方式であるべき。当然事務局は、「NPO 法人東海道吉原宿」の若手、新メンバーを呼び込みは、当初は富士市のごみを考える会が主体となってもよいと思うが、その後は「友達の友達は友達」ということで、新たなメンバーの人脈でも、新たなメンバーに声かけし、人の輪を拡げていけばよい。

5. 具体的検討は、まずは、スタート時の事業プログラムの確定（稼働当初、なにをやることにするのか）から入るべき。最初は、あまり無理をせず、運営要員が確保された確実なものから取り組めばよい。その後、市民からの要望、確保できる要員等を踏まえ、逐次見直し（追加・修正・削除）していけばよい。

6. 基本設計において、以前「エコづくりの会」が提案した事業プログラムのうち、なにが採用され、なにが削除されているのか？

また、市当局の検討の段階で、その後、追加された「事業プログラム」があるのか、あるとすればそれは何か？を明確にし、それらの事業プログラムにつき、深掘り（具体化、詳細化）とその推進要員の確保・育成にかかれればよいのではないか。

7. 富士市には、従来から各種の市民グループが各方面で活動している。今回建設予定の環境啓発施設で行おうとしている各種の「事業プログラム」の大半は、それらの市民グループによって以前から行われてきている。その活動拠点をここに移しここを拠点に活動してもらうことで良いのではないか。

8. 具体的検討を行うに当たっては、個々の事業プログラム毎に「従来から活動している市民グループ」、「ごみマイスター」（50 人はいる。施設案内には適任であろう）、「環境アドバイザー」（従来から環境教育講師として活動中である）、「地球温暖化推進員」（従来から環境教育講師として活動中である）等々のメンバーの中から個々に当該事業プログラムに関する識者に個別に呼び掛けを行い参画を要請する。

9. さらに、本施設建設に際し、以下の点について、更なる審議・検討が必要と考える。
市施設の有効活用の観点から、すでに当市に存在する施設を本新環境クリーンセンター環境学習・環境啓発施設にも設置するかどうかという点である。

- ① 新環境クリーンセンター環境学習・環境啓発計画（案）」で取り上げられているが富士市に既にある事業プログラム計画

➤ ときどき トライー手漉き和紙作り（かぐや姫ミュージアム）

② 本施設が住民参加型の施設を目指している以上、将来の運営体制を考慮すれば、施設の基本設計の時点よりより広い富士市全体からの有識者参加を求め、その延長線上での施設運営を目指すべきと考える。特に3R以外の分野については、外部識者の参加要請を図る必要がある。特に外部識者の参加要請を図る必要がある（？）事業プログラム計画としては、

▶びかびか グッズ（ふれあいバンク、家具や締め隊、おもちゃ病院、・・・）

▶もりもり キッチン（静岡ガス、・・・）

▶わくわく スタディ（富士市環境アドバイザー、こどもエコクラブ、・・・）

▶どきどき グッズ（ふれあいバンク、家具や締め隊、おもちゃ病院、かぐや姫ミュージアム、・・・）

▶いきいき ビオトープ（常葉大学・山田辰美教授、富士市自然観察の会、・・・）

10. 検討に当たっては、まずは個別に詰め、それを全体会に持ち込んで調整をしていくという形の全体会と事業プログラム毎の分科会構成とするのが良いと思う。

11. また、事業プログラム毎の分科会の長で構成される「企画調整会議」なるものを中間に置く必要があるかもしれぬ。